

令和5年度 第5回 富田林市、太子町、河南町及び千早赤阪村
地域公共交通活性化協議会 議事概要

日時：令和6年2月2日（金）午前10時～正午
会場：河南町保健福祉センター「かなんぴあ」2階 大会議室

●出席委員 29名

猪井委員、中村委員、内田委員、鬼追委員、伊東委員、高平委員（亀井氏が代理出席）、西田委員、湯口委員、金谷委員、岡崎委員、古川委員、伊藤委員、井関委員、田邊委員、野谷委員（藤原氏が代理出席）、藤田委員、芝辻委員、市村委員、田内委員、佐藤委員、才門委員、松田委員、齋藤委員、渡邊委員、稲山委員

【規約改正後】吉村委員、田中委員、森田委員、南本委員

●欠席委員 3名

川邊委員、松崎委員

【規約改正前】白江委員

●公開・非公開の別 公開

●傍聴人数 47名

●会議次第及び議事要旨

案件

（1）富田林市、太子町、河南町及び千早赤阪村地域公共交通活性化協議会規約等の改正について

事務局より資料2-1～2-4に基づき説明し、了承された。

金剛自動車株式会社の白江委員が委員から除かれ、4市町村長が新たに加わった。

会長は吉村委員に、副会長は吉村会長の指名により猪井委員が留任となった。

吉村会長の発言は議事概要のとおり。

（2）4市町村コミバスの運行状況について（報告）

事務局より資料3に基づき報告した。

学識経験者、バス事業者、住民代表の委員からそれぞれ発言があった。

発言内容は議事概要のとおり。

（3）令和5年度予算の補正について

事務局より資料4に基づき説明し、了承された。

（4）令和6年度 事業概要について

事務局より資料5に基づき説明し、了承された。

近畿運輸局（オブザーバー）より地域公共交通計画について説明した。

（5）その他

4市町村コミバスの愛称募集について、事務局より資料6に基づき報告した。

事務局より会議の開催日時について説明した。

第6回 未定

●資料

資料1 委員名簿

資料2-1 富田林市、太子町、河南町及び千早赤阪村地域公共交通活性化協議会規約（案）

資料2-2 富田林市、太子町、河南町及び千早赤阪村地域公共交通活性化協議会規約 新旧対照表

資料2-3 富田林市、太子町、河南町及び千早赤阪村地域公共交通活性化協議会事務局規程（案）

資料2-4 富田林市、太子町、河南町及び千早赤阪村地域公共交通活性化協議会事務局規程 新旧対照表

資料3 4市町村コミバスの運行状況について（報告）

資料4 令和5年度 富田林市、太子町、河南町及び千早赤阪村地域公共交通活性化協議会 補正予算（案）

資料5 令和6年度 事業概要（案）

資料6 4市町村コミバスの愛称募集について（報告）

参考資料1 バス事業者別 利用者数

参考資料2 地域公共交通計画について ほか

●議事概要

案件

（1）富田林市、太子町、河南町及び千早赤阪村地域公共交通活性化協議会規約等の改正について

吉村会長 今回、規約改正によって、会長としては、富田林市長の私が、委員としては、太子町の田中町長、河南町の森田町長、千早赤阪村の南本村長が委員として、新たに参加することになった。4市町村長が責任のある立場でしっかりと協議会に関わることで、4市町村がさらに連携を深めながら、協力し、持続可能な公共交通に向けて取り組んでいきたいと考えている。この間、委員の皆様には、タイトなスケジュールの中、慎重に審議し、運行計画案をまとめていただいたことから、昨年12月21日以降の代替交通の確保を行うことができ、協議会として一定の成果が果たせたものと考えている。会長として、重ねて感謝を申し上げる次第である。今後は、4市町村コミバス事業が実施段階となり、様々な問題点、課題等も出てくると思われるが、しっかりと議論をしながら、この公共交通を作り上げていかなければならないと考えており、委員の皆様には、令和6年度の事業概要の審議等、今後も引き続き、本協議会に対するご理解、ご協力をお願いする。

（2）4市町村コミバスの運行状況について（報告）

猪井委員 緊急事態の中、皆様の努力により、途切れることなく運行された。本日配布された資料にもあったように大変多くの方が利用されており、第1回の協議会で申し上げた、大出血している状態はひとまず止まっ

たというところで、私からすると非常に安心できる報告を聞くことができた。これからは、主なご意見にもあったように、便数が少なくなったなど、まだまだ改善しなければならないところもあり、この場の皆様に意見を聞きながら変えていく。そして、それからもう一度、同じような議論をしながら、その内容を向上させていく、いわゆるスパイラルアップというものを続けていく必要がある。いずれにしても、皆様の努力で運行を維持でき、多くの方に利用されていることで、やはり地域の方々の足として必要であることを再認識できたことは、非常に大事だったということは強調しておきたい。

吉村会長 ここで、4市町村コミバスを運行する近鉄バス株式会社及び南海バス株式会社より、それぞれご意見をお願いしたい。

田邊委員 おかげさまで何とかこの1ヶ月、運転手のモチベーションが上がったまま、運行させていただいた。データに関しては資料に記載のとおりであるが、運行してみて思うことは、地域の住民の方々から協力いただいているということである。運行時間が遅れず、ほぼダイヤ通りに運行できており、その理由としては、細い道などで前から来た車がバスに道を譲ってくれるなど、自家用車がわざわざよけてもらっているおかげであり、乗務員も大変驚いている。大阪府内全域でこのようなマナーの中で運行できれば、もっとやりやすいのにな、という感想が現場から聞こえてくる。近鉄バスが運行しているところでは、ICが6割、現金が4割ということで、最初から半分以上の方がICを使っていることから、IC対応のバスを期待していた人も多かったのではないかと感じている。事故に関しては、もらい事故が1件あったが、それ以外は特に問題なく運行できている。

野谷委員 昨年12月21日からの運行に際して、それまでの間大変なご尽力を
(代理藤原氏) をいただいた4市町村の担当者、認可申請等にあたり、格段のご理解をいただいた近畿運輸局、大阪府の皆様にもこの場をお借りしてお礼を申し上げたい。当初、減便ということもあり、どれだけの皆様にご利用をいただけるのか、本当に不安なところがあったが、いざ運行を開始すると、本当にたくさんの方に利用してもらっていることを実感している。特に平日は、通学、通勤という形で本当に市民の生活の足として、ご利用いただいているということに感謝を申し上げたい。これまでの金剛バスの熟練した乗務員と異なり、道も不慣れで、運転技術が未熟なところもあり、不安もあったが、先ほど近鉄バスさんからもあったように、地域の皆様のご協力のもと安全に運行させていただいており、引き続き続けていきたいと思っている。また、ご利用いただいている沿線住民の方々から、乗務員に暖かい言葉をかけていただいている。乗務員も本当に喜んでモチベーション持って運転をしている。南海バスとしても、地域に根づいた運行となるように、引き続き

安全安心してご利用いただけるように努めたい。沿線の皆様には、健康面を考えると自転車や徒歩ということもあるが、バスを維持していくのは、市町村ではなく、地域住民であることを認識していただき、少しでも多くの方にバスを利用していただくことをこの場を借りて、お願いする。

吉村会長 せっかくの機会なので、各市町村の住民委員の皆様から、ご意見、感想などお聞かせいただきたい。

西田委員 私が聞いている中では、富田林市のレインボーバスの便数が3便となり、9時に開館する福社会館に10時以降でないに行けなくなり、15時以降になると帰りのバスもなくなる、という意見があった。このように不便になったことで、住民が困っているという意見があるので、考えていただきたいと思う。富田林駅前には様々なコミュニティーバスが停まるようになり、カラフルになったという意見もあるが、それでもバスの便数が減ったことで駅前が寂しくなったという意見もある。タクシーもあまりないと聞いている。そういったところを今後、また皆様で協議していただいて、また、4市町村コミバスの恩恵を受けていない住民の税金も投入されているということも考えていただきたい。

事務局 先ほどのレインボーバスの話については、ご意見にあったようにもともと9便だったものが、現在3便に減っているという状況である。減便したバスは現在東條線の一部で運行している。この減便については富田林市の交通会議で今後協議していきたいと考えている。

金谷委員 昨年9月に、12月20日をもって金剛バスが廃止されるということを知り、私を含め住民の方も非常に心配をしていた。しかし、市町村の職員の皆様、また、関係機関の皆様のおかげをもって、12月21日よりスムーズに移行してもらっている。太子町においては、近鉄バスさんに運行していただいているが、今までの時間とほとんど同じ内容で運行してもらっており、非常に喜んでいる。また、テレビでもよくニュースで取り上げられているように、バス事業は非常に厳しいと聞いているが、今後も持続可能な運営に力を入れていただきたい。

古川委員 あって当たり前の金剛バスが、去年に急になくなった。これは住民からすると、大変な出来事であり、手足をもぎ取られたような衝撃であったと思う。この地域で人口を維持していくためには、やはり交通というものがなければならないということを強く申し上げたい。衝撃的な、金剛バスがなくなるという出来事から、住民は今後どうなるのかと関心度は非常に高かった。先ほど、富田林市や太子町の委員の方か

らもあったように、短期間のうちに、4市町村の首長、そして職員の方々が精一杯努力して、国土交通省から認可をいただき、12月21日に間に合った。私は、短期間のうちによくやったなあ、とお褒めの言葉を住民の皆様からいただいた。これは、やはり富田林市、太子町、河南町、そして千早赤阪村の団結力が国を動かし、大阪府を動かし、議員の皆様のご努力もあったと思うが、私ども住民も精一杯、協力してきたということは大きな力となったと思っている。細かいことはいろいろあるが、喜んでいるということは現状であり、そして、様々なことを要望しているということも現状である。このような機会に、より便利に、より継続していけるように、みんなで協議して決めていきたいと思う。

井関委員 運行開始当初は、千早赤阪村立中学校前からの乗継など、複雑なところに関する問い合わせも複数あったが、主要な路線で朝夕の一番混み合う時間帯は、今までと変わらず発着しており、今のところ特に問題もなく落ち着いている。まだ始まって1ヶ月ほどなので、もう少し様子を見て、新たな問題があれば、この協議会で協議し改善して進めていければと思う。

吉村会長 今後、協議会の中でもご意見を踏まえながら、検討していかなければならないと考えており、運営の参考にしたい。

以上